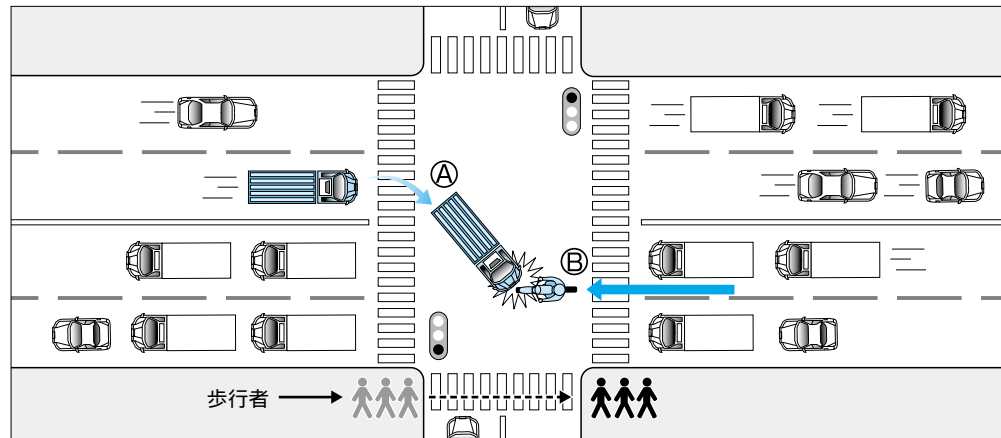


職場における交通安全指導

Part 71

事故事例に学ぶ
38

交差点を右折する際、直進中の二輪車と衝突



事故の概要

発生状況

日 時：平成19年11月某日 午後7時頃
天 候：晴れ

道路状況

片側二車線の県道で交通頻繁な道路

事故の当事者

運転者A(15tトラック): 58才、男性
被害者B(400cc二輪車): 20才、男性

被害状況

A: 前部左側バンパー微損
B: 右足骨折、全身打撲等(全治5か月)

事故状況

Aはトラックの運転歴が11年で、その間軽微な構内事故が1件のみで、普段の仕事振りが評価されて新たに大型車を任せられ、輸入雑貨類の搬送業務に専従した矢先であった。

事故当日は、会社を午前6時に出発し、いつもどおり所定の倉庫から輸入雑貨類を積み込み、県外で遠距離の得意先へ商品の搬送を終えた後、県内の倉庫に商品を納入する途中であった。

事故の発生場所は高速道路に接続する二車線の県道と一車線の市道が交わる交差点で、県道を挟み一方が工場地帯、他方が住宅街を形成する市街地で、事故時は業務車両や家路を急ぐ通勤帰りの

車両、歩行者等で交通状況は頻繁であった。

Aは、交差点を右折し近くの最終目的地へ向かうため道路の右側車線を走行中であったが、商品の荷捌きや帰社時間の遅れ等を考え気持ちは幾分焦っていた。

その頃、対向車線は二車線とも渋滞し全ての車両が停止しており、Aが交差点に差し掛かったときには信号も「青」であったことから、Aはすぐさま右折の態勢に入った。

直近に至り再度前方を見渡したところ、横断歩道の中央付近を右側から渡ってくる男女3人の歩行者を認め、夜間であまり見通しが良くなかったことから、その歩行者が気になり横断歩道を完全に渡り終えるのを待つことにした。

対向車線の交差点手前で停止している車両は何れも先頭が大型貨物車であり、歩道の側端から停止車両までの間隔がやや狭かったのを見ていたAは、「青」信号でも交差点への進入車両は他にないものと判断し、歩行者が渡り終えた後、信号の切り替わりが間近いと考え、進行方向の遠方に視線を移しやや速度を上げて進行した。

右折を終了する直前になって、大型貨物車の車列間から一瞬光が射したのを見て危険を感じ直ちにブレーキを踏んだが間に合わず、Bが運転する二輪車に衝突、転倒させたものである。

この事故の直接の原因は、Aが交差点を右折する際、道交法で定められた徐行義務を十分に履行

せず、「交差点への進入車両はない」という甘い判断から、対向車線の「死角」に対する警戒心が疎かになり、交差点に進入する車両への安全確認を怠ったことである。

一方で、Bについても交差点を直進するにあたり、左右の安全を確認することなく高速で進入したことが事故の要因にもなっている。

安全指導

「焦り」は禁物

運転に焦りは禁物です。Aは、車両が大型車に変わり、荷捌きに要する仕事量が増え、また、作業に不慣れであったことも加わり、帰社時間の遅れが気になり内心相当に焦っていました。

運転中に焦りが生じると、イライラしたり慌てたり、思慮や冷静さを欠いた粗雑な運転に陥りやすく、事故の危険が増します。

運転は、認知、判断、操作の三つの要素が的確に行われて初めて安全が保たれます。そのためには、「平常心」が大切です。常に「平常心」を保ち、落ち着いてリラックスした状態で運転ができるよう心掛けましょう。

「死角」に注意

当該事故の場合、対向車線の死角に対する注意力を疎かにし、甘い判断と思いつきで加速し事故を招きました。交通頻繁な道路で見通し不十分な夜間であることを考えれば、車両間の死角から二輪車が進行してくるかもしれない危険は十分予測できた筈です。

渋滞の影響により車両が交差点手前で停止状態のときは、右左折する運転者に油断が生じ、判断ミスや見落とし、発見遅れ等が原因で事故に結びつくことがよくあります。特に貨物車には、車両自体に目やミラーで捉えられない死角が多く、「危険を予測する運転」を実践することが肝要です。交差点を右左折する際は最大限の注意を払い、十分に徐行し、状況により一旦停止を繰り返し慎重な運転を心掛けましょう。

「過信」をなくす

Aは運転歴11年のベテランドライバーでした。高い運転技能を身に付け、豊富な運転経験や長年の無事故歴から、運転には相当の自信を持って

たと考えられます。しかし、車の運転では、時に「自信」が「過信」に繋がることもあるので注意しなければなりません。

Aが取った一連の運転行動の背景には、長い運転経験の中で、いつしか「自分は事故を起こさない」という「過信」が芽生えて交差点での判断ミスや注意力の弛緩を招く原因になったといえます。無事故歴の長い運転者は、一方で事故を起こす「危険の前兆」であると受け止めることが重要です。

貨物車の事故実態をみても、年齢30歳以上、運転経験10年以上のベテランドライバーが大半の事故を起こしており、特に大型車の場合はその傾向が顕著です。どんな無事故歴の長い運転者でも、危険に遭遇する可能性は他の運転者と変わらないと認識し、「過信」を戒め「自分は運転が下手だ」位に意識を一段下げて運転すれば、広く注意が払われ、より安全性の高い運転が期待できると考えます。

対二輪車事故の危険要因

交差点通行の際は、左折時の二輪車「巻き込み事故」、右折時の対向直進二輪車との「右直事故」が多発し、重大事故となる危険が高い。

二輪車の事故多発の要因

「死角」に入り、早期発見が困難である。
高速で交差点に進入する。
バランスを崩しやすい。
前方のみ注視し、周囲への警戒意識が薄い。
小型のため見落とす危険が高い。

二輪車の重大事故の要因

衝突の際、転倒する。
轢禍(タイヤでひく)の危険性が高い。
身体を防護するものがない。
衝突後滑走し、二次事故を招く危険が高い。

組合の交通事故防止重点項目

「交差点右左折事故の防止」
～ 予知・確認運転の徹底 ～

- (1) 右左折時は、左右から横断する歩行者・自転車を意識して安全確認を徹底する。
- (2) 右折時は、対向直進する二輪車に特に注意する。
- (3) 左折時は、左後方の二輪車・自転車を巻き込まないよう特に注意する。